

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.29 2008年1月号

2005年の9月に「毎日楽しく」を始めてから、早いものでもう3年目にはいっています。これを読まれているみなさんの多くは、私よりも年上の方がたですから、こういうかたちで私がみなさんに何かをお伝えするというのは、本来は大変おこがましいことです。そこで、何かをお伝えしているのではなく、私の単なるひとりごとだと思って見ていただければ、大変ありがたいなと思っています。今月もそんなひとりごとを書きます。

何年も前のことになりますが、ノストラダムスの予言というものがはやっていました。その予言によれば、1999年に世界は滅ぶはずでしたから（そうでない解釈もあるようですが）、それを信じていた子供のころは、自分は30歳ちょっとで死ぬんだと思っていました。でも去年、おかげさまで何事もなく40歳となってしまいました。

教育者で哲学者の森信三先生によれば、人が多少とも国家社会のお役に立つのは、40歳以後だとおっしゃっています。つまり、40歳までは修行の時代だというわけです。また、この「毎日楽しく」で何度か書いている北川八郎氏は、「40歳からは与える人生」ということをお話されています。すなわち、30代までは人から知恵をもらったり、教えてもらったり、力をもらったりという「もらう世界」で、40代にはいったら、自分がいただいた恩や、得た情けややさしさ、学んだ知識や、その他あらゆるものをまわりにお返しする「返す世界」ということだそうです。ただ、自分のことを考えてみると、40歳になってからもみなさんからいただくことが多くて、なかなかお返しすることができないような気がしています。それでも、なんとか少しずつでもお返ししていきたいと思っています。

そういえば、「四十にして惑わず」という孔子の有名な言葉もありますね。でも、さすがに孔子のようにはいきませんので、まだしばらくは惑いそうです。

みなさんの40代はいかがでしたか？

